

さざなみ

国語教室

さざなみ国語教室
 第506号 2024年5月25日
 発行者代表 吉永幸司
 連絡先 大津市柳川2-11-5
 TEL 077-522-1008
 発行所 滋賀児童文化協会
 NPO 現代の教育問題研究所

世界の見方を変えてみよう

吉澤 勇一

私は医科学分野の博士課程を修了後、科学者として十年間、人々のより豊かな生活をサポートする食品の研究開発に従事してきました。科学者は真理を追究し、物事の本質を捉えることに関心があります。例えば、疑いようのない正方形を目にしても、見方に問題がないか自身に疑問を投げかけ、視点を変えたり、時間を置いて確認したり、他者の見解を参考にしたりもします。そうすることで、正方形と思いついていた図形の本質が立方体であったり、それ自体が大きな構造物の1ピースに過ぎなかったりすることに気づかされることがあります。

職業柄、日常生活においても本質を追い求める癖があるため、私の性格は面倒と思われることもあります。最近「ハズレの仕事があります」と考えている方から相談を受けました。確かに多くの利害関係者を巻き込む必要があり、思い通りに進めにくい側面があることは事実でしたが、強固なサポート体制に恵まれており、実績を評価され任されていること、実分だけ誰もが経験できない成長の機会を既に手にしていることもまた、別側面から見た事実でした。これらの事実を冷静に分析すると、仕事内容に当たり外れがある

のではなく、仕事との向き合い方次第で、即ち個人の捉え方の中に当たり外れがあると私は考えます。人は誰しも先入観や感情先行型の思考、自身に肯定的な情報の選択的受容により、物事を客観的に捉えることが難しくなることがあります。厄介なことに、心に余裕がない時ほど、この傾向は強く表れるようです。しかし、人間の脳には主観的に物事を捉えようとする性質があることを理解し、日頃から自身の見解に疑問を持ち、他者の見解を理解しようとする姿勢を意識すれば、客観的なもの見方が習慣化します。世界の見え方が少し変わると、これまでの苦悩が些細なことに変わり、余裕ができた時間や頭を目標達成のために費やせることもあるでしょう。今年も多くの人にとって環境の変化が著しい季節となりました。これまでのやり方が上手くいかないこともあるかもしれませんが、人との出会いや変化を楽しみ、積極的に多様なもの見方を養う学びの機会としてみてはいかがでしょうか。皆さまの生活がより豊かなものになることを願っております。

(京都女子大学附属小学校の元児童(転校生)の保護者)

さざなみ

▼令和6年3月30日の読売新聞一面のトップ記事は「生成AIは『正解』作らせ丸写し(横見出し)「学生の単位取り消し」(縦見出し)」。4月29日は衆議院の補欠選挙(東京・島根・長崎)の結果を掲載していたので、トップ記事ということに意味を感じた。▼記事は東京都内の私立中高一貫教育校の英語教諭の「これじゃ、無料の宿題代行会社が現れたようなものだ」というのたためいきから始まる。「昨年度の冬休み、中1の生徒に英語で日記を書く宿題を出したところその現在完了形など教えていない英文法が使われ、ミスもない」として何人も宿題の日記は生成AI(人工知能)は「正解の丸写し」として嘆いているという内容が続く▼2022年11月チャットGPTが無料公開され、急速に社会に浸透するAIに生徒たちが依存を強める事態にこの学校では英作文の宿題を廃止したという。このことについて識者は「学習に後ろ向きな生徒はAIに頼りきりになり思考力や創造力の育成が疎外される。学力の格差が広がる」と警鐘を鳴らす▼英語の宿題の例から推測するのが定番の夏休み宿題である読書感想文。本を読まずに書く子ども。その感想文をAIに任せて評価する教師? AI依存の様子が簡単に想像できるのはいり過ぎでしょうか。記事は連載で、行政や企業における成果を紹介している、教育も成果から始まるその日が来るはず。(吉永幸司)

国語辞典の名人になろう

山田 定子

今年度も三年生の担任となつた。三年生になると、新しい教科(理科、社会、総合)が増え、書写では毛筆が始まる。多くのことに新しく挑戦することとなり、子どもたちはワクワクドキドキしている。また、国語科では、初めて国語辞典を使う。この国語辞典との出会いを大切にして、国語辞典の魅力や秘密をたくさん見つけ、「いつでも使っていこう」と感じられるようにしたいと考えた。ゲーム感覚で国語辞典を使うことで、進んで国語辞典を使っていこうとすること、また、文字や語句について国語辞典を利用して調べする方法を理解することを目標にした。

①国語辞典を楽しむ。
・辞典を見ながら秘密を見つける。
言葉がいっぱいある。
漢字、片仮名がいっぱい書いてある。
五十音順に言葉が並んでいる。

②ゲーム感覚で国語辞典と遊ぶ。
言葉の意味、言葉、文字を調べ、使い方を理解する。
③言葉を速く探す。
・よく知っている言葉、よく使う言葉

・子どもたちがあまり使わない言葉など
・片仮名の言葉、促音、拗音などを含む言葉
④文章を読みながら、言葉の意味を調べる。

①②の学習は導入である。家庭でも学習することがあるので、学習参観日に保護者と一緒に活動するようにした。これが子どもたちにはとても嬉しかったようで、一緒に国語辞典を引きながら「こうかな」「ここに書いてあるよ。」と話しながら意欲的に、ここにこ」と学習していた。また、「調べる言葉が全部見つけられた。」「たくさん言葉をみつけられた。」「満足気に話している子もいた。使っていく内に慣れるというけれど、慣れるまでに面倒だと感じてしまっただけなので、興味を持たせながら学習を進めていけるように考えている。

国語の時間には、必ず国語辞典を置くように指示し、学習中、分からない言葉や難しそうな言葉が出てきた時には、国語辞典を使って調べるようにしている。これを繰り返すことで、国語辞典を使うことに少しずつ慣れてきている。「今日は速く見つけられた。」「こんな言葉を見つけた。」「という言葉も聞かれるようになった。また、時間が少しあると、「国語辞典、見てもいいかな。辞典、見てると面白いよ。」という子も出てきた。このような学習を続けていくことで、子どもたちが国語辞典に親しみ、意欲的に、積極的に使っていくこととする気持ちを高めたいと思っている。

(野洲市立北野小学校)

「大きな声の音読」から「工夫した音読」へ

川部 長人

今年度、初めての異動となり湖南市立菩提寺小学校に異動となった。教科書が東京書籍から光村図書に変わり、新たな教材研究をするのが楽しみである。

一つ目の教材が『ふきのとう』であり、単元の目標として「だれが、どうしたのかを確かめて、お話の様子がよく伝わるように音読しよう」とした。子どもたちは一年生の頃から音読の学習をしている。単元の最初に「どんな音読がいい音読かな?」と聞いてみると、「大きな声で読む」と答えた。「大きな声で読むことがいい音読だと思いませんか?」と聞いてみると、全員が挙手した。「他にはあるかな?」と聞いてみたが、「えー他にもあるの」という反応であった。「一年生になったので、今年度は大きな声だけでなく、工夫して音読をしていきたいと思えます。工夫とはいろいろなやり方がありますが、今回はお話の様子を聞いてる人によく伝わるように音読できるようにしていきたいましよう」と伝えた。

お話の様子を伝えるためには、子どもたちの内容把握が大切である。今年度も音読と視写を中心に、内容把握を行っていく。視写をする内容により、子どもたちは言葉にこだわって学習を進めていく。例えば、『さむかったね。』『うん、さむかったね。』とささやいています。『この文章の「ささやいてる」という言葉に注目して、「ここはささやいてるんだから

他の所より小さく読む方がいいよね」という子がいたので、「じゃあここはささやきながら音読してみましよう」とみんなで音読の練習を行ったりしていた。

単元の最後に音読発表会を行った。音読発表会の振り返りで、「自分が音読でがんばったところ。工夫したところ」と「友だちの音読でよかったところ」について書かせた。子どもたちの振り返りを紹介する。

○「自分が音読でがんばったところ。工夫したところ」
・「よいしょ よいしょ おもたいな」のところをがんばりました。
・「竹やぶのかけになつてお日さまがあたらない。」とさんねんそうです。のところがさんねんそうなのがつたわるように読んだ。
・大きな声で、リズムよくかぎかつこと、ふつうのところをくべつして音読した。

○「友だちの音読でよかったところ」
・Sさんがささやいてるところを、ちゃんと声を小さくしていた。
・Rさんが「おうい、はるかぜ。おきなさい。」のところがはるかぜをおこすように大きな声でいつてたのがよかった。
・Yさんはいつもこくごのじかんには、大きなこえでがんばっているところがよかった。

音読発表会の時にはどの子も工夫して音読している姿があり、単元序盤の音読とは大きく変わっていた。これからも音読と視写を軸に国語の学習をがんばっていきたい。

(湖南市立菩提寺小学校)

作文から考えること

畑中 翔太

今年度も作文を学習や学級経営のための活動として取り組んでいます。日頃の日記や書く活動の中で、「家庭のこと、好きなこと、習い事などについて書かれており、児童理解のよい機会となっております。

子ども達が書いた文章を学級通信に掲載して共有しているのですが、中には作文ノートに「先生へ。この文は通信に載せないでください。」と書く子がいました。自分の出来事や思いを素直に書き、担任だけに教えてくれました。テキストに課題に向き合っていないと受け取りました。そうした子の書くことに対する姿勢を大切にしたいです。

少し話が変わります。5月に差し掛かり学級目標を子ども達と考えました。「たこ焼きがいい。」というAさんの冗談から、「Oたのしい、Oこころおどる、Oやさしい、Oきづかう」という意味を付け加えながら全体で話し、みんなが納得する学級目標「たこやき」ができました。

その日の宿題に日記を出す、Bさんは「家庭で学級目標の「たこやき」について話したことを書

ていました。一部紹介します。お父さんに「いいなあ。たこはお節料理にも多幸という意味で入れられている。」と教えてもらっています。

数日後たまたまBさんのお父さんと出会う機会があり、私は「早速学級目標について話していただいたみたいで、嬉しいです。」と話すと、お父さんは「いや、私は多幸の話よりも、たこ焼きは、外はカリカリ中が熱々だから、そういう学級になればいいなという話題を書いてほしかったんですよ。」と話していただきました。

お父さんの学級に対する熱い思いを聞きながら、お父さんが大切にされた話題に対して、Bさんは「たこに多幸という意味が込められていること」が一番印象に残ったのかなと考えていました。

宿題の日記は自分の経験や思いを書いてもらっている中で、Bさんが印象に残ったことを書いてくれるとよいと思います。一方で、会話での大きな話題を読み取ることでできているかについては、考える余地があります。話者が力を入れて話したことを聞き、読み手に伝わるように書く活動をするのも面白そうだなと思いました。

(大津市立田上小学校)

『低学年の漢字指導』

井上 凜斗

今年、私は男子二十一名、女子十名、計三十一名の二年一組の担任を任せられた。これまで中学年や高学年の担任を務めることが多く、低学年の指導は未知の領域だった。さらに、二年生は単級のため、相談できる同学年の先生もいない。そのような中で始まったこの一ヶ月は、やるべきことに追われ、本当にあつという間だった。

日々の学習指導の中で、新出漢字の指導も難しさを大実感した。二年生で最初に学習する漢字は「読」であり、十四画と画数が多く、子どもたちにとってハードルが高いと感じた。さらに、漢字の構成要素である「売」の上部が「土」ではなく「士」であることも、理解を難しくする要因の一つであった。

指導中、子どもたちからは、「画数多い」「むずかしい」「気をつけなあかんこと多すぎ」という声が続出した。どの子も、もっとたくさん漢字を覚えたいという意欲を持っているがゆえに、こうした言葉が出てくるのだと感じた。

新出漢字の学習を続けていく中で、子どもたちの苦手と課題が徐々に明らかになってきた。

苦手なことは、「漢字を組み立てる構成する要素を捉えること」である。

- ・どの画が長いのか、短いのか。
 - ・マスに対して初筆の位置。
 - ・何本横に引くのか。
- これらの要素を意識せずに漢字を書くため、漢字のバランスが崩れてしまうことが多いようである。

課題は、『お直しが常態化してしまい、自分の書いた字の見直しをしないこと』である。学校や宿題での漢字学習でも、「書いておしまい」や「間違っていたらそのときに直せばいいか」という意識になってしまっているようである。そのため、消しゴムを使って書き直しをした形跡もあまりなく、自分で字の間違いに気づけず、何度も同じ間違いを繰り返してしまっている。

これらの苦手や課題は克服するために、マス黒板に大きく漢字をかき菜があら、初筆の位置などのポイントを説明したり、見直し方法を指導したり、様々な指導方法の工夫を取り入れている。

先日、漢字学習後にある児童が、「井上先生。今日の漢字の宿題な、きれいにかけそうやねん。自分でも見直したり、お母さんにもアドバイスもらってがんばってる」と意気込んでくれた。日々の指導が芽を出し、子どもたちが前を向くこの瞬間がわたしは大好きだ。

(豊郷町立日栄小学校)

「学習指導案の書き方」

三上 昌男

小学校教員を目指す大学三回生の学生十六名を対象として、学習指導案の書き方を中心に、国語科の授業づくりについての研修を指導する機会があった。秋には教育実習に行くそうで、受講する態度は前向きでよかった。

研修の導入として、子どもの俳句に評語を書く活動から取り組んだ。評語のポイントとして、次の三点を挙げ、モデル文を示した。

①作者に語り掛けるように②俳句から分かる様子や気持ちに共感するように③言葉の使い方のよさを伝えるように。

次に、学習指導要領のねらいを踏まえ、授業に最も適した主教材としての教科書の使い方について取り上げた。系統性を重視した教科書の編集や「教科書で教える」ことの意義、主体的・対話的で深い学びについても触れた。

また、国語科の授業構想をする際、「この教材で、こんな力を、この子らに、このような言語活動を通して」を合言葉として、教材研究、育成を目指す資質・能力の設定、児童の実態把握、指導のねらいを達成するための言語活動の選定が大切であることを伝えた。さらに、「学習指導要領解説 国語編」を使い、国語科の目標や指導事項、言語活動例の調べ方を確認した。

学習指導案の役割は、次の三点に整理した。学習指導・授業の設計図としての役割、授業研究の資料としての役割、授業実践・改善の記録としての役割である。

学習指導案の形式では、基本的な項目として、①単元名(教材名)②単元の目標③単元で取り上げる言語活動④単元の評価規準⑤指導によせて(教材観・児童観・指導観)⑥単元計画⑦本時の計画(本時の目標・本時の展開)を示した。

「指導によせて」の内容は、授業者の具体的な考えや方針を述べる部分として、大事にする必要があることを伝えた。

説明文教材「いろいろなふね」(東京書籍一年下)を例に、学習指導案の書き方のモデルを提示した。

単元で取り上げる言語活動は、「自分のお気に入りの乗り物について、のりものカードをつくって友だちや家の人に紹介する。」とした。

「指導によせて」の(指導観)は、次の通りである。

「教材文を読む際には、基本的な文型を捉え、『やく目』『つくり』『できること』を事柄ごとに色分けし、それらをのりものカードに書きながら読み進めていくようにする。四つの船について読み取ったことをカードから一覧表にまとめ、それぞれの船の特長(よさ)を比べながら理解を深められるように導いていきたい。」

乗り物に関する本や図鑑を読む時間を確保し、紹介したい乗り物を決めるようにする。三つの観点が見つけたやすい乗り物の資料を精選し、その中から紹介したいお気に入りの乗り物を選べるように個別に支援する。のりものカードは、『やく目』『つくり』『できること』を書くことを基本に、自分なりの工夫も生かして作成するようにする。また、のりものカードを使い、紹介する相手に分かりやすく伝えるための練習の場をもつ。」

受講者は、単元計画が書かれたモデルを理解し、本時(第四時)の計画を作成する演習に取り組んだ。

まず、単元の目標と本時の目標のつながりを意識し、児童に身に付けさせたい力を具体化、焦点化することに留意するよう助言した。

本時の展開では、本時の課題を確認し、児童がもつ本時の目あてを表すことに取り組んだ。また、児童の思考がつながる学習活動を具体化するとともに、児童の学びを支援する指導上の留意点や評価の仕方を考えるよう働きかけた。

限られた時間の中で本時案を完成することはできなかったが、教材文や資料を読みながら熱心に学習指導案作りに取り組む学生の姿に頼もしさを感じた。

(滋賀県総合教育センター)

編集後記

▼4月(五〇五回)令和6年度(五〇六回)活動計画を次のように決定しました。①「第6回全国国語実践研究会 会津大会」(会場は草津市)②「近江の国語実践研究会」の開催③子ども俳句教室の指導(開催)④竹の会・東風の会との合同研究会の参加等です。全体を通して研究内容について「言葉による見方・考え方」を高める国語科授業実践」について研究協議をいたしました。提案は森邦博さん(全国国語実践研究会理事長)▼研究会の研究主題である「言葉による見方・考え方」を高める」について説明・提案がありました。内容は、実践事例として山田定子さん(北野小・会員)の指導をもとにしたものと、山田さんは言葉を大切にすることを、ワークシート・板書・音読等の学習活動を通して実現する指導の知恵が大事であるという実践のポイントを▼「言葉による見方・考え方」を働かせる」という表現は、小学校の国語科の学習指導要領において重要な概念です。言葉を通じて物事を理解し、表現する能力を育成すること、具体的に「は、児童が様々な事物、経験、思い、考えなどを言葉でどのように理解し、どのように表現するかの学び」を指していることは理解できます。しかし、日常の指導の姿がみえるかどうかであろうと考えられます。▼研究協議では、山田さんが実践した資料をもとに、対象となる言葉、言葉と言葉との関係、言葉の意、働き、使い方を話題にして研究内容を深めました。▼巻頭には、吉澤勇一様から玉稿を頂きました。深謝。

(吉永幸司)